

甘木朝倉 介護保険事業者 協議会 会報

甘木朝倉介護保険事業者協議会 会報
Vol.6 平成14年4月1日発行 第3巻第1号（通巻第6号）

Vol. 6

『介護保険制度 3年目を迎えるに あたって』

甘木朝倉介護保険事業者協議会
副会長 火野坂 徹



暖かい春の日差しを浴びて、土筆が顔を出しています。早いもので、公的介護保険制度が始まって丸2年の月日が経ちました。私たち介護保険事業者協議会のメンバーは、一昨年8月の発足以来、同業者間の親睦と異業種間の交流を深めることが、より良い介護保険事業の発展につながると確信し、シンポジウムやスタッフセミナーなど、種々の活動を行って参りました。新しい年度を迎えるにあたり、事業者協議会の1年半の活動を振り返ってみて、本当に介護の現場で役立っているのか、もう一度原点に立ち戻り、気持ちも新たに更なる進歩に向け、精力的に取り組んでいきたいと思っています。新年度より専門部会の会長が交代されるところもあり、それがまた新たなエネルギーとなり、そのことが協議会を一層活性化することを望んでいます。介護保険制度も3年目を迎え、保険制度の運営面では、少しずつ軌道に乗ってきているように思えます。私

たちが実施したアンケートや各種の調査によれば、介護保険利用の満足度は、満足、ほぼ満足を合わせると7～8割以上に達しています。しかし、その一方で、今まで表面に現れなかった新たな問題点が出ています。介護の必要があるにもかかわらず、1割負担ができない世帯、膨大な数の施設入所待ち、ヘルパーの通院介助の問題、在宅における家族の介護放棄、痴呆性老人の要介護認定など等、数え上げれば切りがありません。私たち事業者協議会は、これら弱者の声を代弁し、関係各機関に伝達することも大切な仕事の1つと思います。

介護サービスの質の向上は、私ども協議会に与えられた共通のテーマです。地域のみなさんに本当に喜んでいただけるよう、そしてお役に立てるよう努力いたします。皆様の更なるご協力、ご理解をよろしくお願い致します。

研修会報告 (居宅介護支援部会から)

◆【在宅歯科と口腔ケア〔かかりつけ歯科医との連携〕】について



①

① 白杵辰雄先生
② 研修会風景



②

去る2月8日(金)午後6時30分より、甘木朝倉市町村会館(甘木市)において、居宅介護支援部会が開催され、ケアマネージャー研修の一環として甘木朝倉歯科医師会 理事 白杵辰雄先生を講師としてお招きし「在宅歯科と口腔ケア〔かかりつけ歯科医との連携〕」をテーマに研修会が行われました。(参加者総数63名、居宅介護支援事業所に所属されない方の参加も含む)

白杵先生は、現在福岡県歯科医師会で作成を進めておられるパンフレットの内容を、スライドを使いながら詳しく説明されました。

「歯はいのち」である(寝たきり予防の観点から)、「健康をつくる窓」である、「口は外に開いた臓器」であると、口腔ケアの重要性について前置きされ、口腔ケアの目的として以下の7点を挙げられました。①清潔感、食欲の増進、②むし歯、歯周病の予防、③感染症の予防、④口臭の抑制、⑤誤嚥性肺炎の予防、⑥将来経口摂取するための前訓練、⑦生活の質(QOL)の向上。

次に、見落としがちな義歯の洗浄について触れられ、「入れ歯もその方の歯、表も裏も清潔に」と、具体的な洗浄方法についてのアドバイス等も行っていました。また、口腔ケアを行っていく上では、日常ケア(セルフケアもしくは介護者のケア)とプロケア(歯科医師や歯科衛生士のケア)の両方が重要であることを強調さ

れましたが、現在介護認定審査会に出席されておられる中で、口腔ケアの必要性について触れられているかかりつけ医の意見書が過去2件しかなかったことから、歯科医師とケアマネージャーとが今後密接な連携を取っていくことが必要ではないかと話されました。

今後の課題としては、①かかりつけ医の意見書の中で、口腔関連項目にもチェックしてもらうこと、②ケアマネージャーの方々に対し研修の機会を増やしていきたいこと、③他団体との交流を行っていきたいこと、等を挙げられました。

終了後参加者からは、現在困っていることとして、痴呆の方の義歯管理の問題や、なかなか義歯をはめられない方の義歯の再作成等について質疑があがっていました。

最後に甘木朝倉歯科医師会では、現在訪問診療事業を進めており、寝たきりの方を担当された場合には是非かかりつけ歯科医に相談して欲しいこと、もし、かかりつけ歯科医がない場合は歯科医師会に相談していただければ近くの歯科医師を紹介できること、また、今回このような機会を設けてもらった事に対し謝意を述べられ講義を締めくくられました。

(記：野口秀康)

事業報告

第3回スタッフセミナー開催



① 小原真知子先生
② セミナー風景
③④ ロールプレイング風景

去る2月18日(月)午後6時30分より、めくばー三輪健康福祉館 多目的ホール(三輪町)において、第3回スタッフセミナー(本会研修部主催)が開催されました。講師として、小原真知子先生(久留米大学文学部社会福祉学科 講師)をお招きし、『インテーク技法について』をテーマに、ロールプレイングやグループ討議を交えながらご講演いただきました。当日は風も冷たく寒い日ではありましたが、84名もの皆様方にご参加いただきました。

はじめに「コミュニケーション」の意味や手段について触れられ、特にケアマネージャーやケースワーカーにとって大事な「聞き方」の基本として、「聞く」・「聴く」・「訊く」の3つを言葉を説明され、利用者の話を聞く場合は「聴く」であり、心と体が聴く姿勢をとることが大事であることを教えていただきました。ロールプレイングでは、相手との適切な距離(相手にとってそれ以上近づいて欲しくない距離)や対面の際の角度(真正面ではなく斜めの位置が好ましい)についても、参加者が実際に体験しながら理解できるように進めていただきました。また、対人援助サービス職(スタッフ)と利用者との関係では、①価値観②倫理観③情緒的客観性を持つことが重要であり、特に自己覚知が大切である

と話されました。グループ討議では、人間と機械とのやり取り(事例として、銀行のATMでの引き出し場面)の中でのメリットやデメリットを考え、面接技術への応用(個別化、明確化、相手に気を使わせない、受動的な中立性、非審判的態度等)を学ぶことができました。続いて、人と人の対応(携帯電話のセールスマンと主婦の場面の設定)のロールプレイも行うなど、話し方や聞き方を分析しながら、その場面からどういったことが伺えるか、何気ない会話の中にどのような要因や要素が隠れているのかを教えていただくことができました。

終了後のアンケートの中には、「実践に繋がる講義で面白かった」「相手の話をただ聞くだけでなく、要点を絞り要約、明確化することでより信頼関係も出てくる。」等の意見もあり、大変勉強になったようでした。今回の研修ではロールプレイと先生の明瞭な解説で面接の基本的意義と理想像を学ぶことができ、また参加者の皆様の勉強熱心な姿にもふれられ、企画に携わった協議会の一員としてとても嬉しく感じながら、今回も好評のうちセミナーが終了しました。

(記：鬼塚 純子)

訪問入浴介護部会

部会長 芳野 和子

—第6回部会内容—

1. 疾病別の入浴時の注意事項についての勉強
① 高血圧症・心疾患・感染症 (MRSA等)について
※看護婦の責任は重大であることを再認識
② 消毒液の種類等について
2. 各事業所のサービス利用状況について
3. 困っていること
① 訪問入浴利用者が少ない。
② 入浴車の維持管理が大変

—第7回部会内容—

1. 平成14年度 部会活動計画 (案)
① 原則、開催時の第2火曜日 18:30～20:00
② 開催日及び内容
・ 5月：意見交換と現状報告
・ 9月：入浴車のメンテ、意見交換と現状報告
・ 11月：利用者への対応
(感染症・褥瘡形成者・留置カテーテル装着者等)
・ 2月：反省会、次年度部会長選出、活動計画検討
2. 平成13年度を振り返って
① 利用者が増えない。
② 重症者が多く、入院となる場合がある。
③ 主治医がいない為状態が悪くても相談できず困る。
④ 家族の方に病院受診を依頼するも実現しない。等

第6回開催 H13.12.11 3事業所中2事業所、3名が参加
第7回開催 H14.2.20 全3事業所、3名が参加

通所リハビリ部会

部会長 江藤 清子

—部会内容—

1. 通所リハビリ利用状況
① 風邪等の体調不良で当日のキャンセルが多い。
② 寒くなった為か入所、入院等で利用者数の伸びが少ない。
③ 相対的には利用者の増加は見られる。
④ 送迎時に、不在の家族からの要望が多くなり時間を要する。
2. 行政への要望
① 配置スタッフ基準の見直し
② 当日取消の場合は食材料費の請求ができるように
③ 利用日の理髪や受診の緩和を
3. 利用者(家族)からのニーズとその対応
① 病院受診の希望→利用時間を短縮し片道送迎で対応
② 利用日に下剤の坐薬挿入と、排泄処理を要求される。
→施設の方針の説明、ケアマネからの協力を得る。
③ 利用回数が家族の希望で左右される。
→毎日利用者はプラン作成時に入浴回数を決めている。
尿便汚染時、皮膚疾患者は毎日だが、その他は週3回。
④ おやつ持込で困っている。→持込禁止と説明する。
等
⑤ 介護度の違いや痴呆の程度によるレクの対応に苦慮

→レベル別も検討するが、具体策も出ないしスタッフも不足

→ゲームと手作業的なグループ分けをしている。等

⑥ 徘徊者等に個別にスタッフが取られる

⑦ 体調不良時等に家族と連絡がつかない。家族の迎えもない。

4. ケアプランの立案・実行状況について

第4回開催 H13.12.12 全8事業所、17名が参加

訪問介護部会

部会長 渡部 照代

—第4回部会内容—

「訪問介護員の自家用車を使つての通院・外出介助の見直しに」対する連盟からの要請に対し、情報交換をしました。各事業所ともヘルパーの車にては、通院・外出介助を行っていないとの事で、事業所毎での対応に委ねました。

—第5回部会内容—

1. 平成13年度を振り返って
・ 常勤者だけではなく、登録ヘルパーにも研修の機会を。
・ 研修したことを訪問先にて実践していきたい。

要望として

- ・ 勉強や研修の場をもっと増やしてほしい。
 - ・ 記録の方法、金銭の管理、緊急時の対応について
 - ・ 他事業所の同行訪問
 - ・ 料理の研修もしたい(例、大根1本で何ができるか等)
 - ・ 重要事項説明書の持ちよりで研修会をしたい。
2. 平成14年度訪問介護部長選出
・ 三輪町社協の介護保険事業の撤退にともないの鶴我ケイ子さん(いしずえ荘)が選任されました。
 3. 平成14年度活動計画
・ 14年度の活動はグループ分けを行い各事業所より事例報告を行うことに決まりました。

第4回開催 H 14.1.22 15事業所中12事業所、19名が参加
第5回開催 H 14.2.19 15事業所中12事業所、17名が参加

介護福祉施設部会

部会長 釜堀 始

—部会内容—

1. 新任挨拶 平成14年1月1日付け 朝老園施設長 今村 順氏
2. 拡大運営会議の内容報告
① 運営部
・ 保健所、行政機関との連絡会議を4月25日実施予定。
・ 協議会の旅費規程、慶弔規程を作り総会に諮る。
② 研修部
・ 第3回スタッフセミナー開催
③ 広報部
・ 会報6号の構成スタイルについて
④ 居宅介護支援部会
・ 甘木朝倉歯科医師会理事 白杵辰雄氏を招き「在宅歯科と口腔ケア」の講演を行う。
⑤ 福祉用具部会

- ・福祉用具レンタル料金の表示をするか否かについて、業者間の価格差があるため難しいところがある。
- ・ある福祉用具事業者と新聞社との提携により福祉用具代金を補助するということが出回っている、このことについて福祉用具部会長の副島さんが情報を把握してこの会で報告する。
- ・協議会名で福祉用具レンタル業者に関するアンケートを取りたい。

⑥その他

- ・2001年12月号「厚生」に甘木朝倉介護保険事業者協議会のことが掲載されたことについての報告。

第4回開催 H14.2.8

全8事業所、8名が参加

訪問看護部会

部会長 鬼塚 純子

一部会内容一

1. 拡大会議報告
2. 平成13年度訪問看護部会反省
3. 平成14年度年間活動予定

訪問看護部会の目的の再認識と活動の取り組みについて

【目的】

1. 質の高いサービスの提供を目指し、相互に研鑽する機会を設ける。
2. 訪問看護の役割や効果的な利用に関する周知、普及活動の実施。上記の再確認と活動の取り組みについて、個々の事業者が得た研修や情報の交換などを通して研鑽、また個々の問題を提起、質の向上を図っている。

介護保険事業者協議会を機軸として、他事業者と交流の機会が増え連携がとりやすくなった。

訪問看護活動の普及活動は徐々に広がっている。専門職としての誇りを持ち、利用者本意の在宅生活が、疾病を持ちながらも、また障害を苦にせず安心して過ごせるように他機関との連携を取り支援する。

平成14年度は、再度訪問看護の目的に沿い、他サービス機関への周知に徹する。

第11回開催 H14.2.5

全4事業所、4名が参加

通所介護部会

部会長 森山 茂生

一部会内容一

1. 今回より甘木のりんご園デイサービスセンターが入会することになりました。今後10事業所で部会を開催。
2. 平成14年度活動計画について
 - ・定例会を前年と同様、年4回(5・8・11・2月の第2金曜日)とする。活動計画としては、DSにおける事故・苦情処理の問題解決、事例検証をしたい。
 - ・介護保険関係や広域連合の方を招いて、今後の介護保険の動向・意見交換会や質疑応答を行いたい。
 - ・通所介護事業者ガイドマップを作成してはどうか。
3. 平成14年度の部会長選出について
 - ・通所介護部会は、任期を1年間としている。代理できて

いる事業所があるため、次回席を設けて決めたい。(その後、日迎の園の出水清治氏に決定)

4. 意見交換

- ・Drより初めての通所利用の場合、まず主治医に利用可能どうかの確認をしてほしい旨、要望あり。
- ・短期入所が1本化になったが、通所介護利用に影響はあるか。→ある施設より、短期入所から通所利用になった利用者が2名いるが、あまり影響はない。

第7回開催 H14.2.8

全10事業所、14名が参加

福祉用具部会

部会長 副島 昌利

一部会内容一

「福祉用具貸与(レンタル)、購入について」テーマで会議を開催

1. 以前、居宅介護支援部会から要望があったアンケート様式に対し、どのように対応するかについて討議。
2. 購入品について
3. 住宅改修について
 - 各事業所の意見
 - 各事業所で取り扱う商品が多少違う。
 - 価格も安い事業所はいいが、高いところはアンケートには納得できない。
 - 各事業所に価格表は配布しているので更に提出する必要はあるのか。
 - 各事業所で色々会社の方針等もある。

第4回開催 H14.2.8

11事業所中5事業所、7名が参加

(蓮池会長、居宅介護支援部会長 鶴我氏も出席)

居宅介護支援部会

部会長 鶴我 ケイ子

1. 研修会「在宅歯科と口腔ケアについて(かかりつけ歯科医との連携)」*詳細は研修報告に掲載
2. 本年度の反省(出された意見)
 - ①介護保険制度上、ケアマネが困っている問題を集約し、協議会として行政に要望を出して欲しい。
 - ②「かかりつけ医への情報提供書」が初回以降は出せていない。医師側からも状況が変化した場合のみで良いとも言われる。医師側の考えを聞きたい。
 - ③入院中の利用者との連携、主治医との連携が難しい。
 - ④主治医から要介護認定申請を行う前に相談して欲しいと言われる場合がある。また、自立だと言われ申請しなかったケースがある等
 - *上記の意見を次年度の取り組みの参考にしたい
 - *制度上の問題については、集約し協議会の拡大運営会議に出していきたい。
 - *「かかりつけ医への情報提供書」については今後改善を図りたい。

第7回開催 H14.2.8

24事業所中19事業所、56名が参加

(火野坂副会長出席)

訪問リハビリ部会

部会長 野口 秀康

一部会内容—

1. 新年度部会開催予定
年4回(4月、7月、10月、1月)開催
2. 来年度予算(約2万円)
コピー代、通信費等として
3. 規約の改定について
現在のところ特に希望なし
4. 部会長変更
今年度まで現在の体制で行う
5. 会報6号原稿について
「訪問リハビリの現場から」甘木中央病院に依頼
6. 医師会病院と甘木中央病院の新規リハビリ技師紹介

第5回開催 H14.1.22 全3事業所、11名が参加

介護保健施設部会

部会長 熊谷 真由美

一部会内容—

(婦長・療養部長を対象に実施)

1. 現在直面している問題点
 - ①介護職員の妊娠中の対応について
妊娠中の業務の振り分け、夜勤、補充について
 - ②ケアプランについて
作成者、作成の流れ、ケアカンファレンス、家族との契約
 - ③ターミナルケア、転院の判断、家族へのアプローチ、各施設の方針、急変時処置の家族への同意の必要性
 - ④要介護認定からはずれた人の対応
在宅介護支援センターとの連携
 - ⑤老健施設の役割機能
在宅復帰の難しさ、他の老健との連携
2. 協議会に対する意見要望
 - 職員数の基準の見直し

- ・レベルの低下により介護度が重度になってきている。
 - ・身体拘束廃止等、ケアの質の向上を指導される
 - ・各施設の夜勤数、日勤数、パート雇用の導入等、意見交換
3. 部会に対する意見・要望等
 - ①施設間の交流・勉強会・情報交換の場として開催を希望
 - ②来年度部会について
・看護介護、相談員、リハビリ、栄養士、婦長会で行う。

第5回開催 H14.2.15 全6事業所、6名が参加

介護療養施設部会

部会長 川波 浩司

—第7回部会内容—

1. 各医療機関の現状報告
 - ・9月、10月はショートステイ利用が増えた。
 - ・介護保険病棟は最近ほぼ満床状態である。
2. 問題点の検討
 - ケアプランの実施方法について
 - ・実施表とチェック表との作成と運用方法について
 - ・ケアチェックを使用して問題プランをたてる。

—第8回部会内容—

1. 各医療機関の現状報告
 - ・ショートステイ利用者絶対数が増加した。
 - ・最近患者数が減少している
 - ・療養病棟は満床状態である。
2. 問題点の検討
3. その他
 - ・役員改選について
 - ・予算について
 - ・合同施設部会の開催について
 - ・協議会活動報告

第7回開催 H13.12.20 全5事業所中3事業所、4名が参加

第8回開催 H14.2.13 全5事業所中3事業所、4名が参加

介護保険が始まってもう2年になります。だんだん利用者の方々にも理解され、上手にサービスを受けている人も増えて来ました。制度にとっても感謝されている人もいらっしゃいます。でもその介護保険制度の中でほとんど利用されていないサービスが薬剤師による居宅療養管理指導ではないでしょうか。私もケアマネージャーとして介護保険制度に関わっていますが、居宅療養管理指導費を頂いてのサービスを行ったということは正直言ってまだ1件もありません。ただ、利用者のお宅を訪問すると、最近ではお薬のことを色々聞かれることが多くなりました。今度来たら聞こうと思っていたと言って、着く早々、お薬を並べられる方もいます。多く聞かれるのは「これは何の薬?」。今は、薬をもらうときには必ずお薬の説明を受けて、必要な人は文書で説明をもらえますが実情は、聞いたその時は解った気がするが時間がたつと忘れる、

研修シリーズ Part.2

◆薬剤師の 居宅療養管理指導

加藤薬局 加藤 文子

もらっても読まないという人が多いようです。

お薬を飲まないで、たくさんためている人もいます。この薬を飲むと便秘になるからと、一番大事な薬を勝手に半分減らしている人もいました。その方には、これは大事な薬だから勝手に

減らすと先生は薬が効いていないと心配して量を増やされるかもしれない、また先生に言えば必要なら便秘の薬を処方されるから、とお話を致しました。案の定、次ぎの検査の際に数値が高くなっていると言われ、先生に、「実は」と白状されたそうです。今は便秘の薬と一緒に飲んでいらっしゃいます。このように実際お宅に訪問してじっくりとお話していると、先生の意図がうまく伝わらずせっかくのお薬が無駄になっている実体が良く見えます。薬剤師も、患者さんともっと身近に接してせっかくのお薬が有効に働くように努力する必要があると思うこのごろです。

訪問リハビリの現場から

甘木中央病院スペース理学療法士 手嶋 あけみ

訪問リハビリの現場からは、色々なサービスをうまく利用され在宅での生活を送られている方の事例を紹介します。

最初の事例は、79歳の男性(要介護3)で頸髄損傷による手足の麻痺がある方の例です。車椅子での生活は自立されており、在宅生活も9年目を迎えています。週2回のデイサービスと週2回の訪問リハビリを利用され、私たちの関わりも3年目を迎えています。より積極的なリハビリを希望され、かかりつけ医の紹介によりサービスの開始になりました。手足の関節の運動や足の筋力強化・起立訓練、時には電動車椅子による散歩などを行い、身体機能の維持改善に向けて頑張っています。時々、「年だから」と弱気な発言をされますが、政治経済の話になるといつも熱弁をふるわれて、私たちの方が色々な面で勉強になっております。

2例目は、78歳の女性で、平成11年10月に脳梗塞で右片麻痺になられ2年間の病院でのリハビリを受けられた方の例です。平成13年10月に退院されると同時に週3回のデイケアと週1回の訪問リハビリが開始になりました。退院される前に手すりやリフトの設置などの住宅改修をされており、車椅子での生活がスムーズに始まりました。要介護1で車椅子での移動は自立、杖での歩行は見守りが必要なです。リハビリの目的としては、ご本人の希望でもある杖での散歩を目標に、病院という、いわば温室のような環境から新たな在宅での生活に早く慣れていただく為にサービスを行っています。ご本人は何事に対しても諦めることなく挑戦しようという意欲があり、積極的に麻痺側の手を使われています。その成果が日記や習字などにもみられ、その上達ぶりには私たちの方が驚かされています。室内での歩行は遠位監視で出来るようになり、今では屋外歩行の練習も積極的に行っています。

訪問リハビリのサービスは、手足の運動や座位・起立・歩行などの機能訓練だけではなく、在宅での生活がスムーズに送れるように実際の生活場面での訓練や家族の方を含めてのアドバイス等も行っています。また、会話やレクリエーションなどを通して少しでも楽しい雰囲気でも過ごしていただけるように心がけています。

地域での活動には様々な職種の関わりによって成り立っています。常日頃より心がけていますが、他の職種の方々と情報交換及び自分達の専門性を発揮できるように今後も課題をもって取り組んでいきたいと思っております。



『住まいづくり教室』が 開催されました。

去る2月13日(水)午後1時30分より、(財)福岡県建築住宅センター主催による「住まい作り教室」がピーポット甘木学習室で開催されました。

福岡県介護保険広域連合朝倉支部 事務長 永野校通氏のご挨拶の後、講師の沖田清先生(ADL地域建築デザイン研究所 所長)に「高齢者介護に伴う住宅改修のポイント」についてご講演いただきました。当日は約45名の甘木朝倉の居宅介護支援事業者及び住宅改修業者が集まり、住宅改修への関心の高さが窺



福岡県介護保険広域連合朝倉支部
永野校通事務長



沖田 清先生

えました。

先生は資料に沿って話されましたが、平成9年から11年のアンケートによると建築上で困っているのはトイレ、浴室が約6割を占めているが、一方、実際に改修された場所はトイレ、洗面所が主となっている点をあげられました。これは、浴室そのものを改修せずシャワーで済まそうとする意識と、経済的な要因によるものが大きいそうです。

次に現在の介護者の状況についても触れられ、約85%が女性であること、また、主な介護力には4つあり、①制度介護力、②地域介護力、③家族介護力、④住宅介護力で、それらが有機的に結びつきながら介護力を高めていくかが重要であると話されました。住宅改修のポイントについては、具体的な事例を取りあげながらご説明いただきましたが、どのような生活ができるのかをしっかりと見据え、残存機能を十分に生かしながら、生活空間を拡大しコミュニケーション、意欲、身体機能の向上を図っていくことが、これから取り組むべき大きな課題であると話され講義を締めくくられました。生活を送ることで重要な要素の一つである「住」への取り組みがいかに大事であるのかを再認識させられる講演であったように思います。

(記：野口秀康)

平成14年度 甘木朝倉介護保険事業者協議会 総会開催のお知らせ(予定)

下記の通り、平成14年度総会を開催させていただきますのでお知らせ致します。

■日時：平成14年5月17日(金)午後5時30分より(午後7時00分より 懇親会開始)

■場所：松屋ガーデンパレス(甘木市)

*総会開催の案内状につきましては、後日ご送付申し上げます。

編集後記

新年度を迎え、皆様大変ご多忙のことと思います。新年度最初の会報はいかがでしたでしょうか。本号作成にあたっては年度末と重なったせいでしょうか、締め切りが過ぎても原稿が集まらず、内心冷や冷やしましたが、なんとか発行にこぎつけることができました。これも皆様のご協力の賜物と感謝して

おります。「研修シリーズ」「現場シリーズ」などもようやく定着してきました。今後も内容の充実を図っていきたいと思いますので皆様方からのご意見やご要望を是非広報部までお寄せください。これからも宜しくお願い申し上げます。(秀)

◆甘木朝倉介護保険事業者協議会ホームページ http://plaza22.mbn.or.jp/~kaigo_net/

事務局

甘木朝倉介護保険事業者協議会 事務局
〒838-0227 福岡県朝倉郡夜須町大字朝日586番地
介護老人福祉施設 朝老園内
TEL (092)926-1171 FAX (092)926-3471

編集 / 発行所

甘木朝倉介護保険事業者協議会 広報部
〒838-0823 福岡県朝倉郡三輪町大字山隈501番地
介護老人保健施設 城山荘内
TEL (0946)22-1051 FAX (0946)22-1318
印刷 / 井上総合印刷株式会社